

第1回燕市下水道事業経営改善戦略策定委員会 会議録

日 時	令和6年1月18日(木) 午後2時～午後4時まで
場 所	燕市役所 3階 会議室301
出席委員	中東委員、幡本委員、上村委員、田邊委員、高野委員、田中委員、平原委員、渡邊委員、木村委員(9人)
欠席委員	木戸場委員(1人)
事務局	市長、都市整備部長、下水道課長、下水道課職員5名、企画財政課職員1名
報道機関	㈱建設速報社
傍聴者	なし

1. 開会

2. 委嘱状の交付

(机上配布による)

3. 市長あいさつ

(市長あいさつ)

4. 委員紹介

(名簿順に紹介)

5. 委員長・副委員長の選出

委員長に中東委員、副委員長に幡本委員を選出
(それぞれあいさつの後、鈴木市長退室)

6. 下水道について(説明)

(1) 下水道について

(委員長) それでは、「次第6. 下水道について(説明)の(1) 下水道について」事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(委員長) 今説明を聞いた中でご質問等ありますでしょうか。

(特になし)

(2) 燕市下水道事業について

(委員長) それでは、「次第6. 下水道について(説明)の(2) 燕市下水道事業について」事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(委員長) 今説明を聞いた中で、まず11ページから17ページまでについてご質問等ありますでしょうか。

(委員) 元日の地震(能登半島地震)もあったことで、老朽化の改善に向けては震災に対

応できるのかも非常にこれから大事なことになっていくと思います。

17ページの下水道施設老朽化への取り組みのなかで、ヒューム管を利用しているようですが、これはヒュームフレキシブル管に変更して、地殻変動に対応するという点まではまだ考えていないのでしょうか。

(事務局) 燕市ではまだ、整備の方が終わっていないことから、まず整備をメインに考えています。

委員からありましたフレキシブル管につきましては、まだ合流管の方がヒューム管で、管更生で地震に耐えうる管にしてきているところです。今現在、すべてフレキシブル管というところまではとてもできる状態ではないということです。

(委員) 14ページの地図で、集合処理区域と個別処理区域が示されているが、私の町内は今のところ下水道が来ていないが、どちらの区域になりますか。

(事務局) 集合処理区域に該当します。

(委員長) それでは、18ページから30ページまでの経営の部分について、質問等がありますか。

(委員) お金につなげたいということで、9ページの説明の中で汚泥は処理された後、肥料になったりすると言われたと思いますが、科学的に分析され、本当に肥料として供与することが可能なものだという答えが出ているのでしょうか。

(事務局) 燕市の汚泥については、搬出業者の方で成分分析もしてもらい、肥料に使用できる汚泥ということで、分析結果を踏まえてコンポスト化していますが、燕市が販売することは今のところ全く考えておらず、処分業者でコンポスト化できる業者を選定し、処理してもらっています。

(委員) 私自身も畑をしていますが、非常に肥料は値段も高くなっており、これから有効な資源として、またここに着眼していけば、収入の元になるのではないかと感じました。

(委員長) 僅かでも、経営の助けになるだろうとのご指摘だろうと思います。他にありますか。

(委員) 21ページ、22ページで、企業債を14億円借り、21億円返済している部分について下水道使用料を20立方メートル当たり3,000円にするとすると、使用料収入が1.5倍くらい増えるということだろうが、それでは他会計補助金は減りはするが、なくなるのではないのか、独立採算の点で、何か解決策はあるのでしょうか。

(事務局) 21ページの支出の企業債償還については、これまでの建設に係る費用に企業債を借りて充てており、そちらを返済している部分、22ページの収入はこれから令和10年概成に向け、整備していくため企業債を借り入れる状態も続きます。整備が終われば借入は減りますが、償還は長いもので30年で返すという形になっています。

他会計補助金に絡み、下水道使用料を総務省のいわれる150円まで上げたらどう

なのかというところですが、今後の事業も見据えまして、この150円というのがよいのかどうかも含め、今後シミュレーションの中で、ケースによりどうなるのか皆さまにお示ししながら、検討していただきたいというところです。

(委員) 現在は浄化槽で費用を年3回くらい払っているが、下水道に接続するときには何かコストが下がるのであれば接続したほうがよいと思うが、損になるようだと定年を控え接続はできない。

多分ほかの市民もそうだと思いますが。

(事務局) 確かに燕市の接続率が他市に比べ低い部分については、委員の言われましたように接続する費用、コストがかかる部分もあり、私どもで接続のお願いをしてもなかなかうまく行かない状態です。

ただ、下水道全般としては、公共用水域の保全といったことを含め、生活環境、居住空間を確保するため、環境にやさしいというところを皆さんにお示しし、接続をご了解いただくことになろうかと思えます。

まだ整備されていないところに関しては、多分、単独浄化槽と言われる、トイレだけが接続されている浄化槽かと思えます。

今後そちらが老朽化して浄化槽を入れ替えるかといったとき、下水道が整備されていればおのずと下水道しか使えない区域となります。

下水道は私どもの管理区域内の管となりますので、何かあっても公費の方で清掃などもでき、維持管理上も公共下水道を利用された方がよろしいと思えますので、そういったことも訴え続けながら整備率、接続率を上げていきたいと考えております。

(委員長) 委員、どうでしょうか。

(委員) 接続費用は仕方ないが、ランニングコスト的に浄化槽と比べてどうなのか。一般家庭だと、大体月3,000円くらいなのか。

(委員長) 月20立方メートルというのは大体標準的な過程で排出される量ですね。

(事務局) 大体平均的な一般世帯です。

(委員長) 他にいかがでしょうか。

(委員) 接続費用はどのくらいですか。

(事務局) 接続費用については、ケースによりだいぶ差がありますが、既設の排水設備であれば、概ね30万円程度ですが、たとえば接続するところに土間コンクリートが打つてであると撤去費用なども掛かるので、かなり高額になるケースは見受けられます。

今年度を見ますと、かなり大掛かりな設備距離が必要になってくる場合に100万円を超えるものが見受けられましたが、それは稀で、一般住宅であれば30万円あれば接続できるものが多く見受けられます。

(委員) 接続に何か補助金が出るといいように思います。

(委員長) 今後の検討の中で、他会計からの投入をできるだけ減らしていく、下水道に接続しているという状況を高めていくことは非常に重要なことと思います。

その辺りも今後の議論の中でも出てくるところかと思えます。

また、使用料の20立方メートル当たり3,000円というのは、総務省の財政措置のある程度前提になっている点でもあることから、そちらも経営戦略見直しの論点になりうるかと思っているところです。

(3) 経営戦略の見直しについて

(委員長) それでは、資料31ページからの「次第6. 下水道について（説明）の（3）経営戦略の見直しについて」事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(委員長) 最後の36ページの図が一番わかりやすいかと思えます。

支出抑制の例、収入改善の例で挙げられている項目が、資料24ページの現状分析と突き合わせてみると、下水道経営において問題なのかが見えてくるかと。

燕市の場合は、収入の側の方にかなり問題としてはあるだろうと思っています。皆さんご質問等あればお願いします。

(委員) 34ページの交付金要件のところ、これはどれか一つを達成すれば要件から外れないと考えてよいですか。

それであれば、期間までに達成可能なのはどれになりますか。

(事務局) これにつきましては、三つの要件のすべてが満足しないと重点化を外れるというものになっております。

したがって、三要件すべて揃ってはじめて重点化になるのが令和7年度以降の要件になっています。

(委員) 私の解釈が違うのか、三要件が「かつ」でつないでいるので、一つでも外れればよいと解釈したのですが。

(委員長) 「かつ」ですので「and」。三つの条件がすべてそろってはじめて重点配分対象になりうるというものになります。

(委員) もう1点。下水道ではないのですが、昨日の新潟日報に新潟市が水道料金を29%上げると出ていました。

議論を始めてから約1年かかったとのことですので、今回下水道使用料の改定などあるかと思いますが、やはり時間がかかるということでスピーディーに進める必要があると思います。

(委員長) 確かにそうですね。

できるだけ早く進めなければなりません、やはり市民の皆さんの理解もあって進むものでもありますので、まず今日は下水道そのものがどういう状況にあるかの理解を深めるというところになっていると思います。

では、経営戦略の見直しだけに限らず、全体で何かありますか。

- (委員) 米納津地区は西川流域に入っていますか。
もう一つ、新生町の方に早急に下水道の本管を繋いでいただければと思います。
- (事務局) まず1点目の米納津地区につきましては、合併処理浄化槽による個別処理区域になっており、将来的に下水道が行くエリアではございません。
また、新生町地区については、下水道処理区域の中に入っていますので、財政状況も影響するわけですが、なるべく早期概成するよう努めてまいりたいと考えております。
- (委員長) 他はありますか。
- (委員) 現状、下水道が通っている場所は、事業所、たとえば飲食店、病院、工場などは接続していますか。
- (事務局) 接続していただいているところもありますが、されていない事業所もありますので、できるだけ私どもの方で接続促進を進めていきたいと思っておりますが今の接続促進の現状としましては、接続率の低い自治会の中でピックアップして行っておりますので、今お話いただきましたので、そちらも接続促進の検討として考えていきたいと思っております。
- (委員) 商工会議所、商工会もですが、下水道が来て接続するかしないかというときに、当然、私個人としては接続したほうが良いと今わかっていますが、企業はどうしても、コストでどちらが良いか判断するわけです。
接続したほうがメリットがあるところと、デメリットがあるところは商売によっても違うと思っております。
- (委員長) やはり、メリットをよりはっきりさせたほうが、接続という選択もしやすくなると思います。
その辺りをうまく伝えることも、経営戦略の見直しの中には入ってくると思います。
- (委員) やはり、企業だとなおさら、補助金などがあるといいと思います。
- (委員長) また、接続するための検討も、この経営戦略の中に入ってくる場所かと思しますので、今後この会議の中でいろいろ検討していきたいと思っております。
他に特にございませんでしょうか。
- (委員) 私は、企業というより自営ですので、近所や個人の方に聞いてみますと、結構繋いでいない方が多く、市長も言われましたが、跡取りがなく自分の代で住まなくなるのに、お金をかけてまで繋ぐことができないとか、見積もりしたら金額がかなり多く断念したお話や、同じ地域の中で下水道に接続したい人としたくないということがあって、なかなか進まないなど、いろいろなケースがありましたが、先ほどあったように補助金であったり、お金を借り入れる際に低利であるなど、やはりお金なのでですね。
その辺りで何か考えていただけたらと思います。

(委員長) ありがとうございます。
接続率というのが非常にキーになってくる場所であると思います。
今後このことについても、検討の一つとしていけたらと思います。
大体意見は出尽くしたでしょうか。
今日は一応、現状のご理解と、今後話を進めていくにあたっての前提知識を皆さんにご理解いただきまして、本当にご近所の皆さんにもぜひこの情報を伝えていただければよいかと、市民全体で関心を高めていただきたいとは常に思っているところです。
一応ここで次第6は終わりにしたいと思います。

7. 議題

(1) 委員会スケジュール（案）について

(委員長) 次に、「次第7. 委員会スケジュール（案）について」事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(委員長) 一応、委員会スケジュールを現状の予定ということで示しております。
かなり長丁場の中で、先ほど委員の皆さんがおっしゃっていたところも含めいろいろ検討していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(特に異議等の声なし)

8. その他

(委員長) 最後に「次第8. その他」です。
委員の皆さんからご発言等ありますか。

(委員) 全然話が違うかも知れませんが、今回の元日の地震で液状化の問題が出ていますが、燕市の状態をある程度把握されているのか、また、万一の場合の断水などにどう対応していくのかをある程度予測していただけるのか機会があれば聞きたいと思っていました。

(委員長) この会議は下水道の方ではありますが、その辺りは燕市の方でも情報公開しているかと思いますがどうでしょうか。

(事務局) 液状化についてだけになりますが、燕市は現時点では液状化の被害は聞いておりません。
液状化について、皆さん非常に興味があると思いますが、国の北陸地方整備局のホームページを見ていただくと、新潟県の液状化しやすさマップを公表しており燕地区も出ていますので、ぜひご覧いただきたいと思います。

(委員長) その他に何かありませんか。
ないようですが、事務局からは何かありますか。

(事務局) 本日は、皆さまから活発なご意見、ご質問をいただきありがとうございました。
次回以降につきましては、先ほどスケジュール（案）を示させていただきました。

が、次回は2月21日水曜日、こちらの会場になりますので、よろしくお願いいたします。

(委員長) 委員会を終了します。
皆さまお疲れ様でした。

9. 閉会